

コミュニティにおける子どもの栄養改善プロジェクト (2023年～2028年)

📍 コミュニティが主体となって子どもの栄養を守る！

■実施団体：特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会
シェア＝国際保健協力市民の会 | 国際保健分野の国際協力NGO団体 (share.or.jp)

■対象国・地域：プレアビヒア州・4郡25コミュン
(12保健センターの管轄区)



■事業実施の背景：

カンボジアでは乳幼児死亡率は低下しているものの、子どもの発育阻害や低体重児の割合が依然として高い状況にあります。中でも、都市部と農村部間の格差と連動する形で、農村部に位置する事業対象地・プレアビヒア州は、子どもの低栄養が最も深刻な地域となっています。

その理由には、農村部における離乳食の知識不足が挙げられ、発達に適した離乳食が与えられず、子どもの食事が少ないことを子ども自身の食の細さと家族が誤認しているケースや、白粥に魚醤と塩や砂糖を加えた程度の栄養バランスの偏った食事しか与えていない、などのケースが見られています。身体的基础が形成される子ども期において、家族の正しい栄養知識と適切な栄養行動は非常に重要です。「栄養不良率削減」というテーマはカンボジア政府も優先して取り組む重要課題の一つであり、本事業では5歳未満児を対象とした子どもの栄養改善プロジェクトに取り組みます。

📝 目標と活動

📌 目標 ⇒ **5歳未満の子どもの栄養改善**

- ・ 女性子ども委員会による子どもの健康増進活動の管理
- ・ 妊産婦・養育者による適切な子どもの栄養行動の実施
- ・ 低体重児のフォローアップ率改善

🌱 活動

- ・ 女性子ども委員会が子ども健康増進活動を実施する体制の構築
- ・ 女性子ども委員会や保健ボランティアの主体による、住民への離乳食教室・保健教育・衛生教育の実施
- ・ 女性子ども委員会・保健センター・保健ボランティアが連携し、(重度)低体重児へのフォローアップの実施

現地からのレポート



現地の人たちが手に入れやすい食材を使った離乳食レシピや調理しやすい方法を開発し、保健ボランティアや地域住民へ伝えています。その地域に根差した活動を大切にするシェアならではの取り組みです。



カギは【コミュニティを巻き込んだ仕組みづくり】



実施団体は、2017年～2021年にかけて、同州で「子どもの栄養改善1000日アプローチプロジェクト」(※)を実施。この事業の中で実施団体が目を付けたのが、**各郡と各コミュニティに存在する行政・自治体機関である「女性子ども委員会」**。本事業ではこの「女性子ども委員会」を本格的に巻き込むことで、**彼ら自身が持つ予算枠組を活用して、子どもの健康増進活動に取り組むことを促進していきます。地域住民自身の手による栄養改善活動を定着させ、持続性の確保を行っているのです。**

(※)一生涯の成長と発達に大きな影響を及ぼすとされる胎児期から2歳までの1000日にフォーカスした栄養改善プロジェクト (share.or.jp)



各郡ごとの女性子ども委員会の体制を把握し、関係性構築に取り組んでいます！